

自分を凌駕する!



「自分を凌駕する!」ために必要なこと

私たちヘッドスプリングが大切にしていることは、社員が持っている固有の力を最大限に引き出し、その能力の限界を突破すること。それを私たちは「自分を凌駕する!」と定義しています。他人と比べるのではなく、自分自身と向き合う。そして毎日毎日小さな成長を積み重ね、人生を楽しむ。そのような意味合いを込めています。

この「自分を凌駕する」ために必要な考えを、ヘッドスプリングの社員を擬人化したキャラクターである「トリア」と実際のエピソードを通じて、この絵本にまとめました。それらのエピソードには私たちのコアバリュー「5つのキーワード」である「信頼感」「独自性」「しぶとさ」「真直ぐさ」「勇気」が込められており、この絵本を通じて私たちが大切にしていることを知ることができます。

ヘッドスプリングには、トリアのように成功も失敗も数多く重ねることができる環境があります。それはやがてみなさんの圧倒的な経験値につながり、そのキャリアを明るく照らしてくれることでしょう。

それでは、トリアの悪戦苦闘の日々を描いたこの絵本を通じて、私たちの考えをお話しさせていただきます。

パワエレの頂を目指して

トリアはパワーエレクトロニクス (パワエレ*) のエンジニア。子供の頃から、ものづくりが大好きで環境問題にも関心を抱いていました。大学で電気工学を学んだ彼は、自然とエンジニアの道を進むことになりました。社会に揉まれエンジニアとして経験を積んできた彼は、パワーエレクトロニクスを極めて活躍の場を広げるために、新しい働き場所を探していました。

リサーチをしていて興味を抱いた会社がありました。それは、ヘッドスプリングというベンチャー企業です。ミッションである「地球上のすべての人が、電力の恩恵を受けられる社会の実現」に込められているように、ソーシャルな視点を持っているところや、国内外の様々な企業とジョイントベンチャーを組み多角的な事業を展開しているところに興味を持ち、すぐさま面接を申し込みました。

無事に入社が決まったトリアは、自分自身のキャリアの未来を想像し、その無限の可能性に胸を躍らせたのでありました。

*パワエレとは、電力を変換するための技術であり、鉄道・電気自動車・太陽光発電・蓄電システムの開発に不可欠な技術です。



現在地(厳しい現実)を知ることは 成長への出発点

—初めての現場—

入社して間もないある日のこと。トリアは、試作品の不具合の点検作業をするためにリーダーと顧客先へ赴きました。それはトリアにとって初めての現場で、自分がこれまで築き上げてきた知識や経験が試される場でもありました。もちろん自信满满でした。

しかし顧客からの鋭い質問に対してトリアは手も足も出ませんでした。一方リーダーは分かりやすく噛み砕いた説明をしながら、その場ですぐ設計を変更し、てきぱきと対応していました。「こんなはずじゃなかった」とショックを受けたトリアは、ただ傍観しているだけで相づちを打つぐらいしかできませんでした。

会社への帰り道、トリアはリーダーに「お役に立てず申し訳ございませんでした」と伝え、「結構大変だったね。でも解決してよかった。初めての現場で頑張ったね」と言ってくれました。恥ずかしさと情けなさが入り混じっていたトリアでしたが、リーダーの温かい言葉が進むべき道を明るく照らしてくれたような気がして、少しだけ前向きになりました。

体験談



大学でパワエレを専攻していたので、知識には自信があったのですが、いや本当に役に立たず!一つも質問に応えられない!社会人としての実力を知ること、今の自分の現在地(厳しい現実)を噛みしめました。

技術グループ K.T



大切なのは真っ直ぐに素直でいること

—ものづくりプロジェクトメンバーへ抜擢—

入社1年後にトリアは、ものづくりの製造まわりの立ち上げプロジェクトメンバーに抜擢されました。トリア自身あまり経験がない分野でしたが、先輩達に頼らず自分自身で課題を解決し、能力を存分に発揮しようと考えていました。

しかし自分の知識・経験だけでは対処できない場面がいくつもあり、自信満々なトリアでさえも諦めそうになる瞬間が何度かありました。その折々に触れて、先輩達が適度な距離感を保ちながら絶妙なタイミングでアドバイスをしてくれました。くじけそうになった時も「このデータを付け合わせる場所だけを今日しっかりやれば、明日どうにかなるよ!」といったアドバイスがありました。

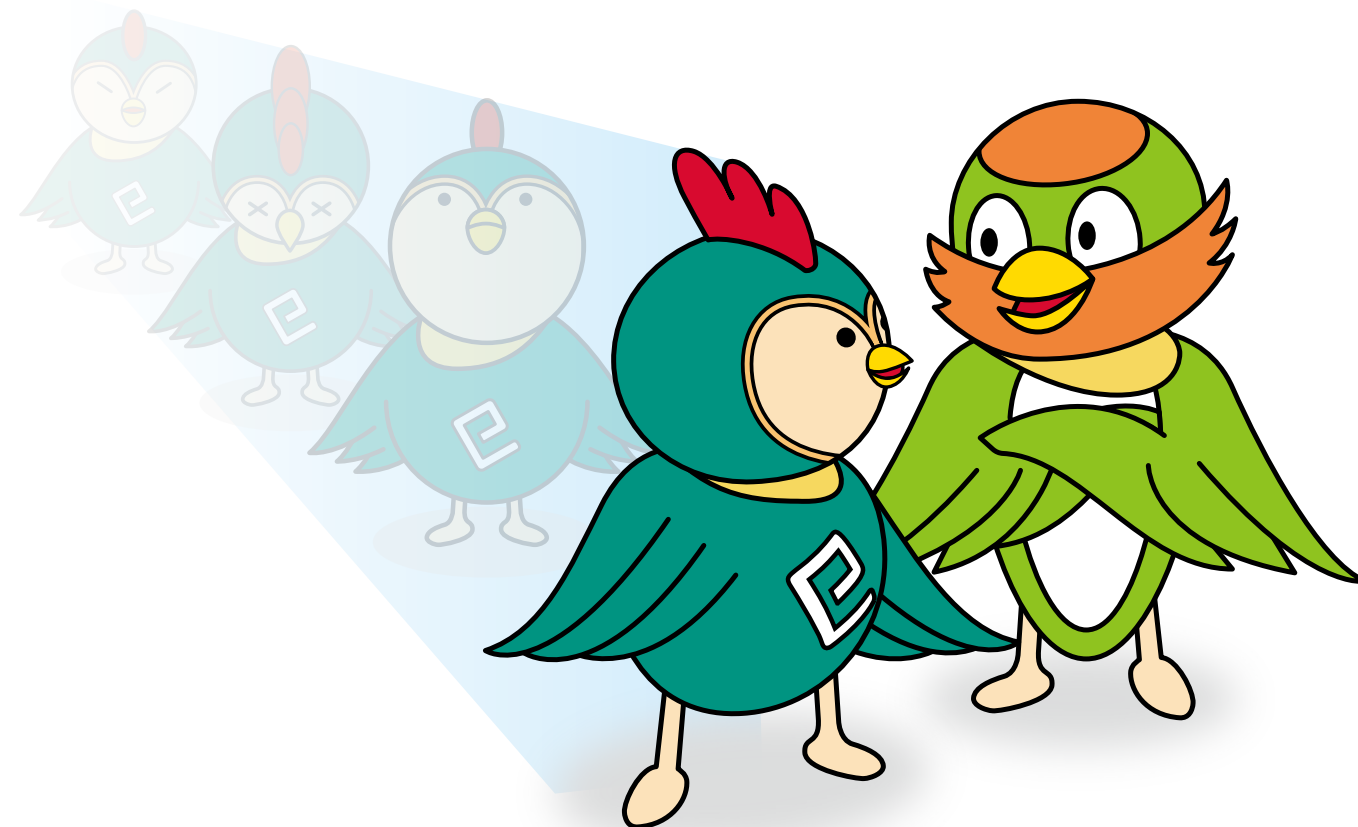
こだわり屋のトリアには少し頑固なところがあり、人の意見に素直になかなか出来ませんでした。でもこの経験を通じて「素直でいること」の大切さを学びました。「上司や先輩の意見をまっすぐに、素直に聞き入れながらも自分の信念を貫く」。トリアの姿勢には少しだけ成長の跡が垣間見えていました。

体験談



チームで仕事をして初めて、今まで気が付かなかった自分の癖や特徴を知り、自分が思っている自分自身と他人から見える自分との間に、大きなGAPがあることに気づきました。他メンバーの客観的な意見を素直に受け入れることで新しい視点を持つことができました。

エンジニアリンググループ K.F



顧客が本当に欲しいものとは？

—先輩とのケンカ—

ある顧客への提案について会議をしていた時、事件が起きました。自分が熟知している先端技術を提案しようとするトリアと、簡単な仕様変更だけを提案しようとする先輩とのやりとりが口論へと発展してしまっただけです。

トリアは自分の技術や知識へ自信がある分、一步も引き下がりません。一方の先輩も簡単には引き下がりません。そこへ他の打ち合わせを終えたリーダーが参加してきました。双方の意見を詳しく聞いたリーダーは一旦参加メンバーを解散させた後、トリアを呼びました。

「君は自分の技術を提供したいのか、顧客の課題を解決したいのか、どっちなのかな？」リーダーがそう言った時、トリアはハッとしました。心のどこかで「技術を見せつけて周りに評価されたい、認められたい。」と思っていることに実は気がついていたからです。

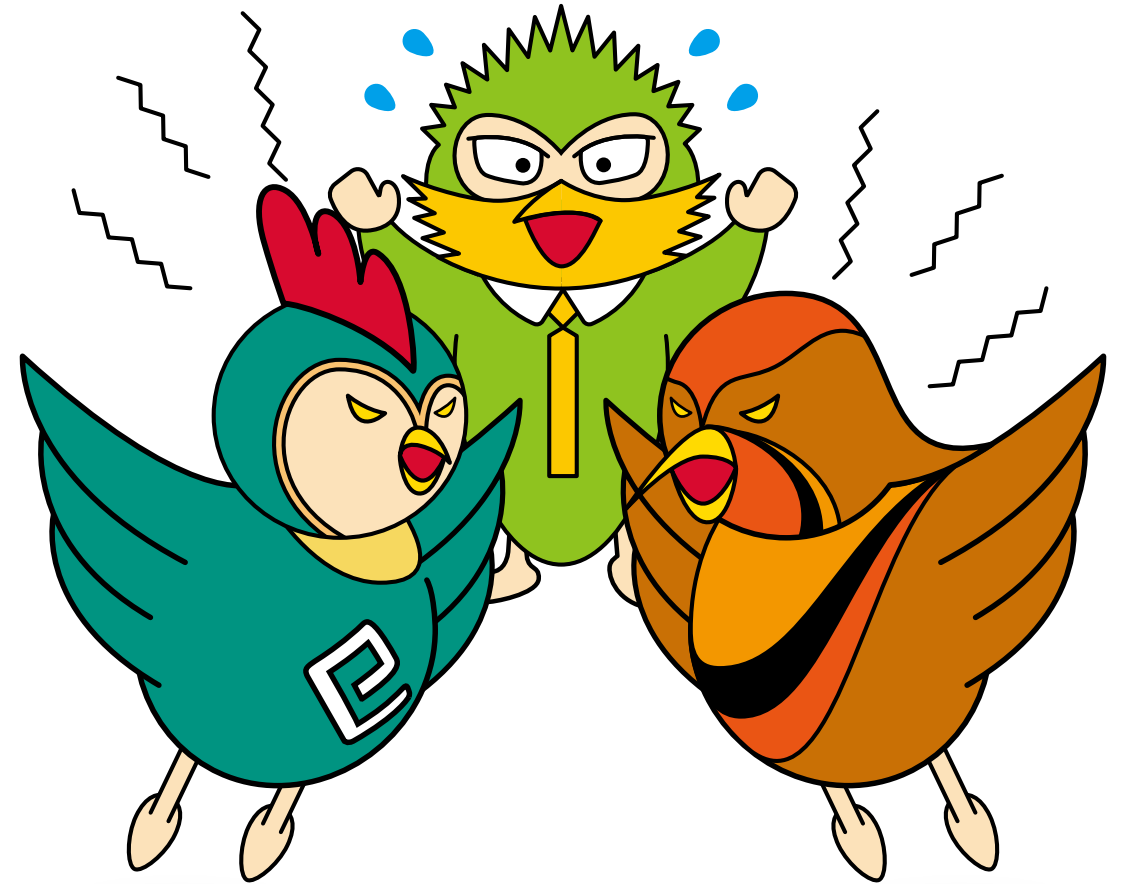
リーダーの言葉はトリアの心にしっかりと刻み込まれました。技術は技術のためにあるのではなく、人のためにある。困っている人を手助けするために技術があるのです。後日、トリアが先輩に謝ったことは言うまでもありませんね。

体験談



エンジニアとして、どうしても最先端の技術をお客様に提案したくなりますが、大切なことは技術そのものの優劣ではなく、お客様を喜ばせるために技術を駆使することだ、と気がつきました。

技術グループ T.T



周囲を巻き込む力は、全体俯瞰から始まる

—悪戦苦闘の日々—

ある日のこと。チームリーダーとして取り組んでいるハードウェアの仕様変更へ対処できないことがありました。何をどうしても解決に至らず、徐々にメンバーの顔には不安の色が出始めていました。

夜が深まった時間までラボに残って検証していると、ある先輩が近づいてこう言いました。「あの仕様変更はこんな風に計算すれば可能だし、あとはそれに合わせるプログラムだけだよ」。その先輩は、チームメンバーではないものの、遠くからそのプロジェクトの推移を見守っていたのです。トリアはたった一人で悩んでいたわけではありません。その先輩も影で共に考え、支えてくれていたのです。

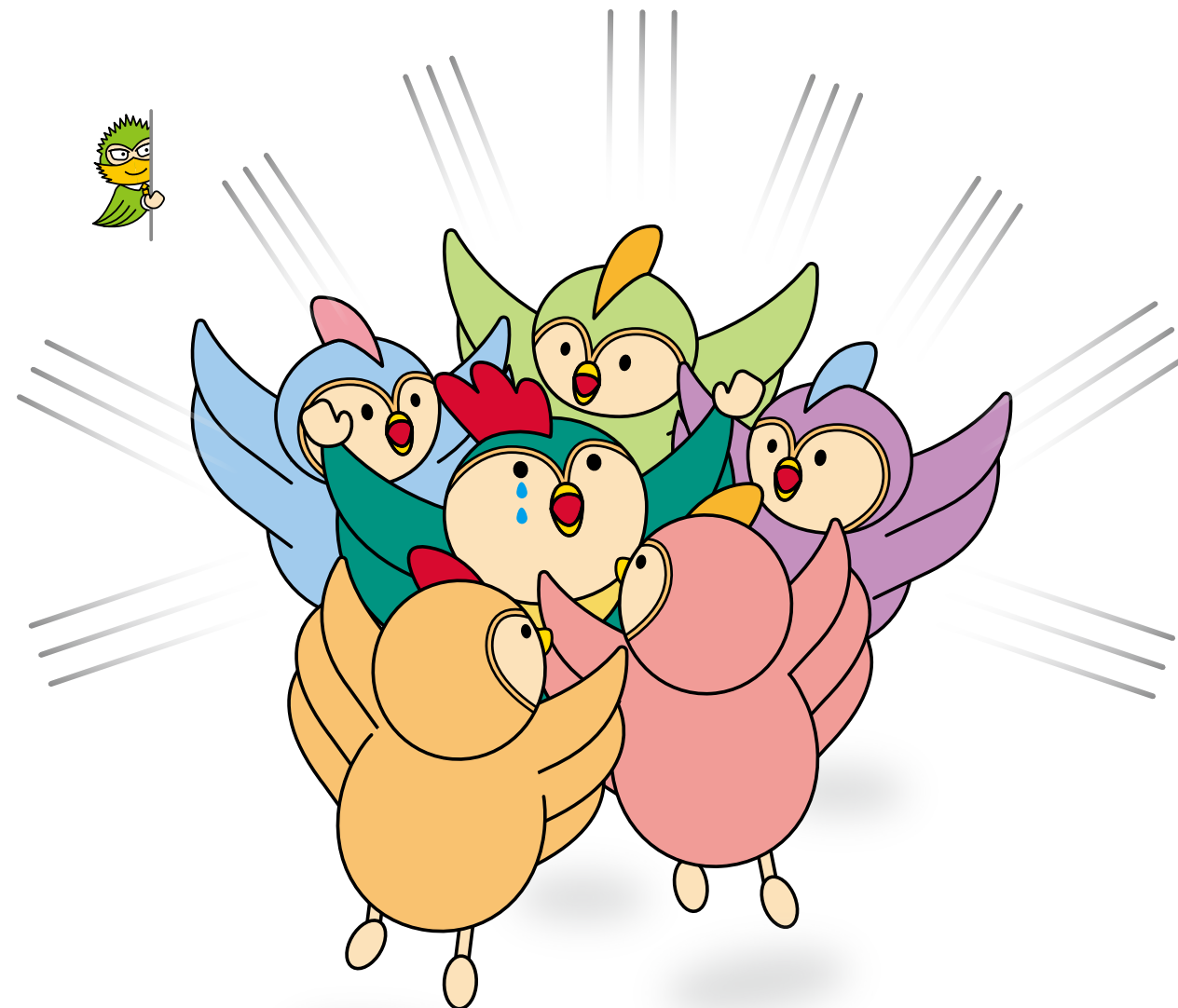
全体を俯瞰することで、今まで気づかなかった解決策が見つかり、無事に納品し終えたチームに歓喜の輪が広がりました。先輩に感謝の気持ちを伝えると一緒に喜んでくれて、チームリーダーとしてのトリアの取り組み方や姿勢を褒めてくれました。トリアは、その先輩の姿からリーダーとしてあるべき姿や持つべき資質を学んだような気がしました。

体験談



自分のことで精一杯になるとどうしても視野が狭くなりがちです。しかし、それではリーダーは務まりません。鳥のように常に全体を俯瞰して、プロジェクトメンバーを一人ひとり見守ることが成功へ繋がることを学びました。

技術グループ M.K



倒れた時が本当のスタートだ

—海外営業での落とし穴—

入社して4年が経ち、メキメキと頭角をあらわし自信に満ち溢れていたトリアは、海外営業部へと配属されました。しかし、エンジニアとして技術を追求していた頃とは勝手が違うことばかり。インドの顧客へ何度も提案した技術が受け入れられず、そしてその理由もわからず、「こんなはずじゃない」と毎日毎日打ちのめされていました。恥ずかしいとさえ感じることもありました。

そこでトリアは、以前海外で仕事をしていた先輩にアドバイスを求めました。先輩はこう言いました。「インドにはインドの電力事情があって、それは日本と大きく異なるはずだ。君はそれをしっかりと理解した上で提案しているのかい？」

目が覚めたトリアはインドの電力事情をより深く調べました。そして粘り強く顧客の要望をヒアリングして何度も何度も仕様書を書き直し、やっと顧客が求めるものを提案することができました。

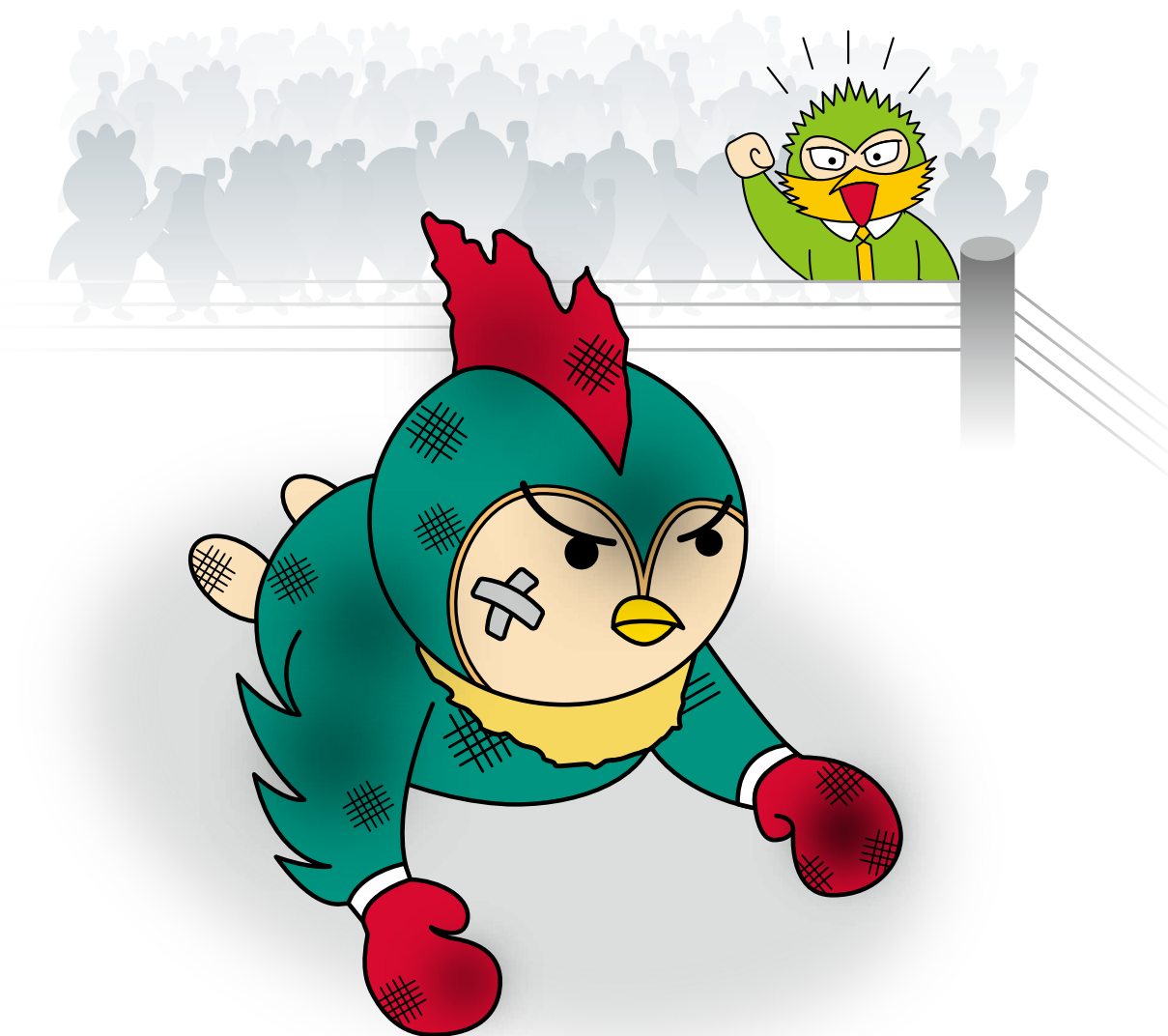
失敗すること、打ちのめされることは決して恥ずかしいことではありません。むしろそれは、成功を目指して突き進む誇り高き姿そのもの。ノックダウンしても立ち上がりさえすれば、KO勝ちを収める可能性が生まれるのです。

体験談



どれだけ実務経験を重ねても、失敗すること・打ちのめされることばかりですが、それは成長するチャンス。失敗を避ける理由は色々あると思いますが、私の場合は、ただ失敗するのが恥ずかしかったのです。そして、これが成長を妨げる要因でした。失敗を通じて初めて、知識や経験を血肉化することができたと思います。

営業グループ T.M



勇気はブレイクスルーへの鍵

—新規事業のアイデア作り—

海外営業と兼務して、社外スタッフを含む新規事業立ち上げメンバーに抜擢されたトリア。「0を1にする」新規事業の構想を初めて体験しました。「何をするのか?」「何を作るのか?」は決まっていません。常識に囚われないアイデアをたくさん出してはまとめ、壊してまた再構成する・・・技術畑出身のトリアはそのプロセスに慣れておらず、「自由に発言していいよ」と言われても、どうしても実現性や周りの人からの評価ばかり気にしてしまいます。でも勇気を持って自分のアイデアを伝え続けました。そして、トライ&エラーを繰り返すことで、1年後に新規事業としての製品第一号を発表することができました。

「若者・バカ者・よそ者がイノベーションを生む」と言いますが、トリアは何者だったのでしょうか? 確かなのは、トリアが他のメンバーとは性格も専門分野も異なる「よそ者」だったからこそ貢献できたことが沢山あった、ということです。

その日々はとても刺激的で、一瞬で過ぎ去りました。トリアはその時のことをあまりよく覚えていません。でも、その経験は確実にトリアに血肉化しています。

体験談



「新規事業の生みの苦しみ」は想像以上に大変なものでしたが、何にも代え難い経験でした。ウミガメは産卵の時に涙を流すと言われておりますが、この時はウミガメの気持ちが少し分かった気がします。

技術グループ D.H



コンフォートゾーンには成長はない —新会社の立ち上げ—

リーダーとして誰もが認める存在になったトリア。その頃、新会社立ち上げのプロジェクトが立ち上がり、そのマネージャーに抜擢されました。

技術を追求してきたトリアには、新会社立ち上げの経験はもちろんありません。だから、これまでの仕事はある意味「コンフォートゾーン」。そこからはみ出ることには戸惑いが多く、正直言って、とてもしんどい仕事です。

トリアは必死に前へ進むしかありませんでした。社内外のスタッフをマネジメントする必要があり、多くの調整が求められ大変な思いをしました。その姿はお世辞にも、スマートだとは言えませんでした。でも、トリアなりに転げ回りながら仕事を進めることで、少しずつ新しい会社の輪郭が浮かび上がってきたのです。強み／弱み・すべきこと／すべきでないことを突き詰めて考え、メンバーに共有し、なんとか新会社の第一号製品を出荷できる段階まで漕ぎ着けました。

新しい会社にはマネージャーであるトリア独自の考えが色濃く反映されました。

体験談



子供の頃、逆上がりや自転車を一心不乱で練習した時と同様に、新会社立ち上げはかけがえのない時間でした。

エンジニアリンググループ M.F



「顧客感動」こそが明るい未来を約束する —チームであり続けること—

入社して5年が経ったトリアは様々な経験を通じて、技術者として以上にビジネスパーソンとして成長を続けてきました。その姿は、入社当初の自信と不安が入り混じった姿からは想像できないほどです。

そんなトリアには、この5年間を通じて芽生えてきたある想いがあります。それは「顧客感動」を提供し続けること。もちろん、技術者としてパワエレを極めることは人生のゴールであり続けています。でも、技術が人のためにあり続ける限り、顧客を感動させるものでなくてはならないのです。期待されている以上の結果を出すことで、顧客の心を震わせることが重要なのです。

そのためにもまず重要なのは、何よりも各々の社員がお互いの価値観や個性を認め信頼しあうこと。チームワークは社員全員の知識や経験を結集させ、様々な課題や状況に応じて柔軟に対応することを可能とし、顧客に感動していただくサービスや製品を提供することができるのです。それはきっと、ビジネスパーソンとしてトリアの成長スピードをますます加速させていくことでしょう。

体験談



ジャズセッションのように、お互いを信頼しあい個々の仕事を高め合うことが「顧客感動」へ繋がります。そのためにも、様々な社内イベントを通じて社員の結束を強めています。

技術グループ Y.N



あとがき

その圧倒的な経験値は世界のためにある

私たちのミッションは「地球上のすべての人が、電力の恩恵を受けられる社会の実現」です。そのために、スマートエネルギー技術の開発と普及を拡大することで「持続可能な循環型社会」を創造し、新興国における地産地消のエネルギーソリューションを提供します。

ミッションを実現するまでには、数多くの困難が待ち受けているはず。時には眠れない夜を過ごすことがあるでしょう。全てを投げ出して逃げ出したいくなる時さえあるかもしれません。しかし、このような大志こそが私たちのようなベンチャー企業の存在意義です。イノベーションを起こし、社会の歪み、つまりギャップを飛び越えることは私たちが社会から与えられた使命なのです。

この絵本で描かれている考えはすべて、その使命を全うするためにあります。

成功も失敗もすべて受け止めて、圧倒的な経験値へと変えましょう。そしてその経験値は社会、いえ、世界へと還元しましょう。

それは誰かの幸せにつながっています。

そしてきっと、自分自身の幸せにもつながっているのです。

代表取締役
星野 脩



自分を凌駕する!

TORIA LESSON

「自分を凌駕する!」ために必要なこと

LESSON 1

現在地(厳しい現実)を知ることは成長への出発点

LESSON 2

大切なのは真っ直ぐに素直でいること

LESSON 3

顧客が本当に欲しいものとは?

LESSON 4

周囲を巻き込む力は、全体俯瞰から始まる

LESSON 5

倒れた時が本当のスタートだ

LESSON 6

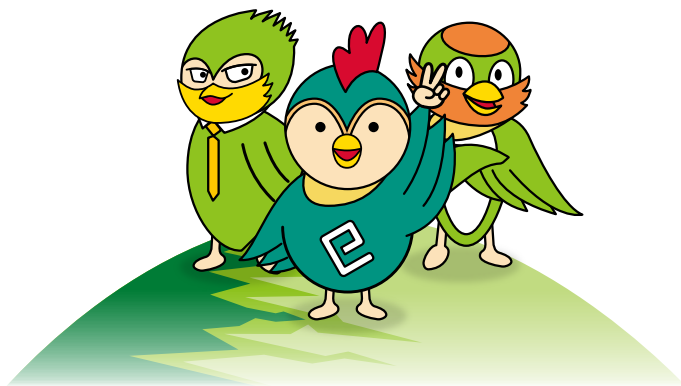
勇気はブレイクスルーへの鍵

LESSON 7

コンフォートゾーンにいては成長はない

LESSON 8

「顧客感動」こそが明るい未来を約束する



ヘッドスプリング株式会社

〒140-0002 東京都品川区東品川2丁目5番5号 ハーバーワンビル3F
TEL: 03-5495-7957 FAX: 03-5495-7958

Produced by Takanori Kitakaze

headspring.co.jp